資料3-2

令和５年３月29日
環境創造審議会

横浜市環境管理計画の策定について（諮問）

1　次期環境管理計画のコンセプト
2　横浜市としてどのように検討してきたか
3　計画本編の骨子案
4　諮問内容
5　今後のスケジュール

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

1 次期環境管理計画のコンセプト

次期計画のコンセプトの考え方

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

コンセプト	手軽に読める・誰かに話したくなる・自分で行動したくなる、環境のための本

・横浜市環境の保全及び創造に関する基本条例に基づいた環境分野の総合計画として目指すべき将来像・大枠の取組方針などを示す。
・行政はもとより、市民・企業の取組の指針となるような内容・文章表現・デザインをトータルで目指し、コミュニケーションツールとしても活用する。

次期計画で目指す行政の状態	目指すべき「横浜の未来の環境」を職員一人ひとりがイメージし、将来像に向けて業務に取り組む

・それぞれの業務が「未来の環境」につながっていることを職員が理解し、より広い視野を持って業務に取り組むことを目指す。
→環境関連部署以外への環境行動の浸透を目指す。

次期計画で目指す市民・企業の状態	環境について、知って、考えて、共有して、行動する

・一人ひとりが現在の環境課題を自分ごととして捉える
・横浜の未来の環境について考えてみる
・冊子で知ったことを、様々な場所で共有する
・自分ができることを見つけ、小さなことからでも行動に移す

次期計画の活用方法

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

計画本編

ターゲット	市民・企業・庁内
様態	冊子50ページ程度 市民・企業の皆様が“読んでもいい”と思えるボリューム感。
活用の場	家庭、学校、環境活動の場で。 企業内の環境研修の場で。 庁内の環境推進の場で。

ハンドブック（案）

ターゲット	市民（家庭・学校）
様態	絵本形式 ＆ リーフレット （仮） 例）渋谷区基本構想ハンドブック、水巻未来図鑑
活用の場	家庭で親子で環境をテーマに話す。小学校での環境学習で。

2 横浜市としてどのように検討してきたか

横浜市としてどのように検討してきたか

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

バックキャストによる政策検討

未来洞察手法を用いて、「将来実現したい横浜の環境の姿」と「実現に向けて取り組むべき政策・施策」を検討

「未来洞察」手法により未来シナリオ年表を作成	横浜の将来の環境の姿を検討	バックキャストで政策・施策を検討
「蓋然性の高い情報」とライフスタイルやビジネススタイルの変化など、起こりうる社会変化などの「兆し情報」をもとに、2040-2050年頃にかけて起こりうる社会変化をシナリオとして作成	未来シナリオ年表から、今後の環境政策に関連の深いシナリオを複数抽出し、それらを参照しながら、「横浜の環境の将来像（ありたい姿）」を描く	「横浜の環境の将来像（ありたい姿）」から、バックキャストにより2040-2050年頃に向けた政策を検討
反映	反映	反映
第1章 「1 横浜の環境 未来を考える」	第1章 「2 横浜の目指す姿・ビジョン」	第3章 「目指す姿の実現に向けた取組」

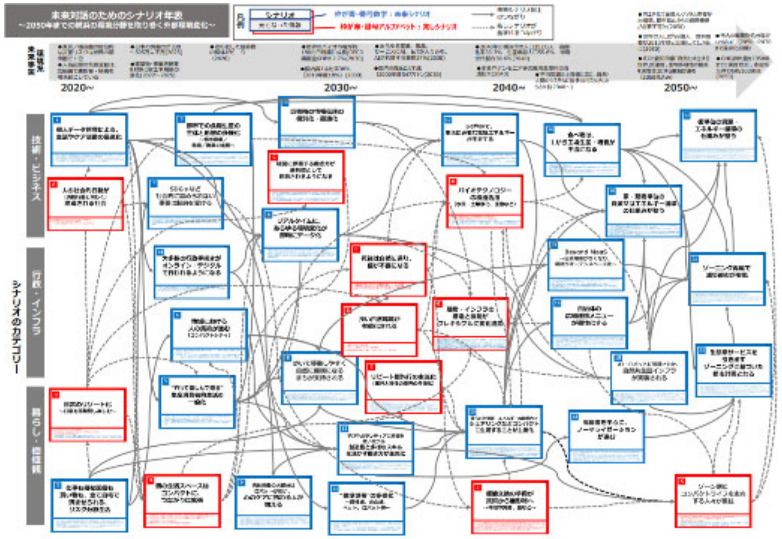
向こう30年で解決が求められると考えられる分野を3つに分けて政策を検討

今後、審議会の意見を取り入れながら、策定作業を行っていく

横浜市としてどのように検討してきたか

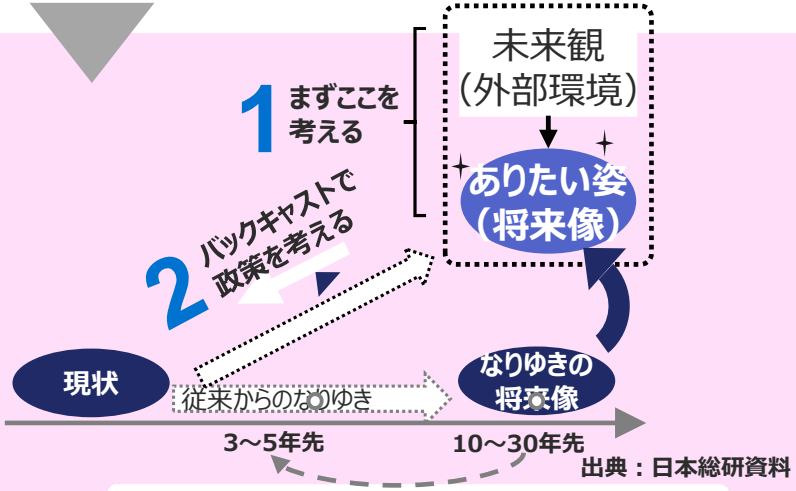
明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

未来シナリオ年表の作成



横浜の将来の環境の姿を検討

バックキャストで政策・施策を検討



出典：日本総研資料

なりゆきの未来から考えても現状と変わらない！

次期計画と現行計画の違い　計画の体系

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

現行計画

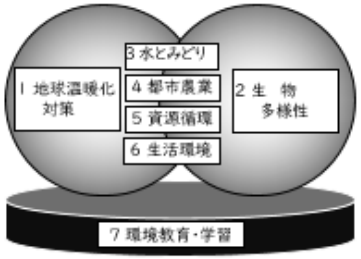
第2章　横浜が目指す将来の環境の姿

第3章　環境政策のさらなる総合的な推進に向けて
- 5つの取組姿勢
- 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用

第4章　総合的な視点による基本政策

1　環境と人・地域社会
2　環境と経済
3　環境とまちづくり

第5章　環境側面からの基本施策

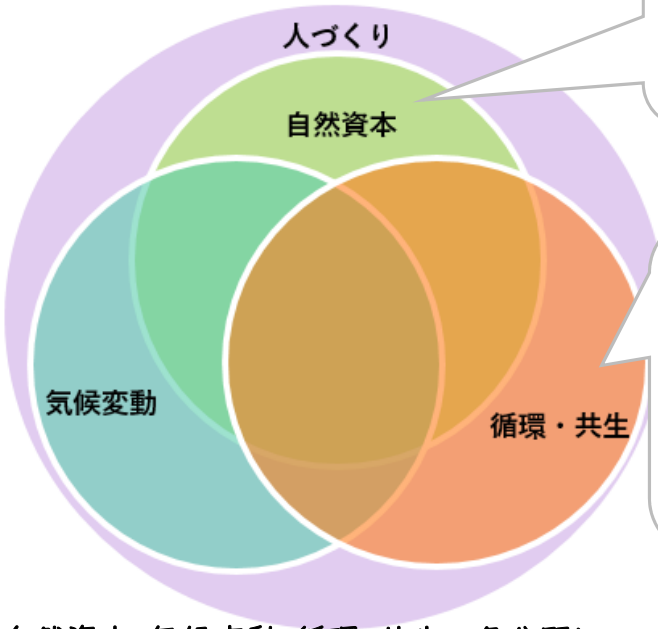


以下の点を考慮し、分野を４つに分けて計画を構成。
- 政策検討の３分野
- 環境を育む「人」が最も重要であるという考え方
- 現行計画の取組も継承

次期計画

第1章　2040年の横浜の環境は
目指す姿・ビジョン

第3章　目指す姿の実現に向けた取組



自然資本、気候変動、循環・共生の各分野と
それを支える人づくり

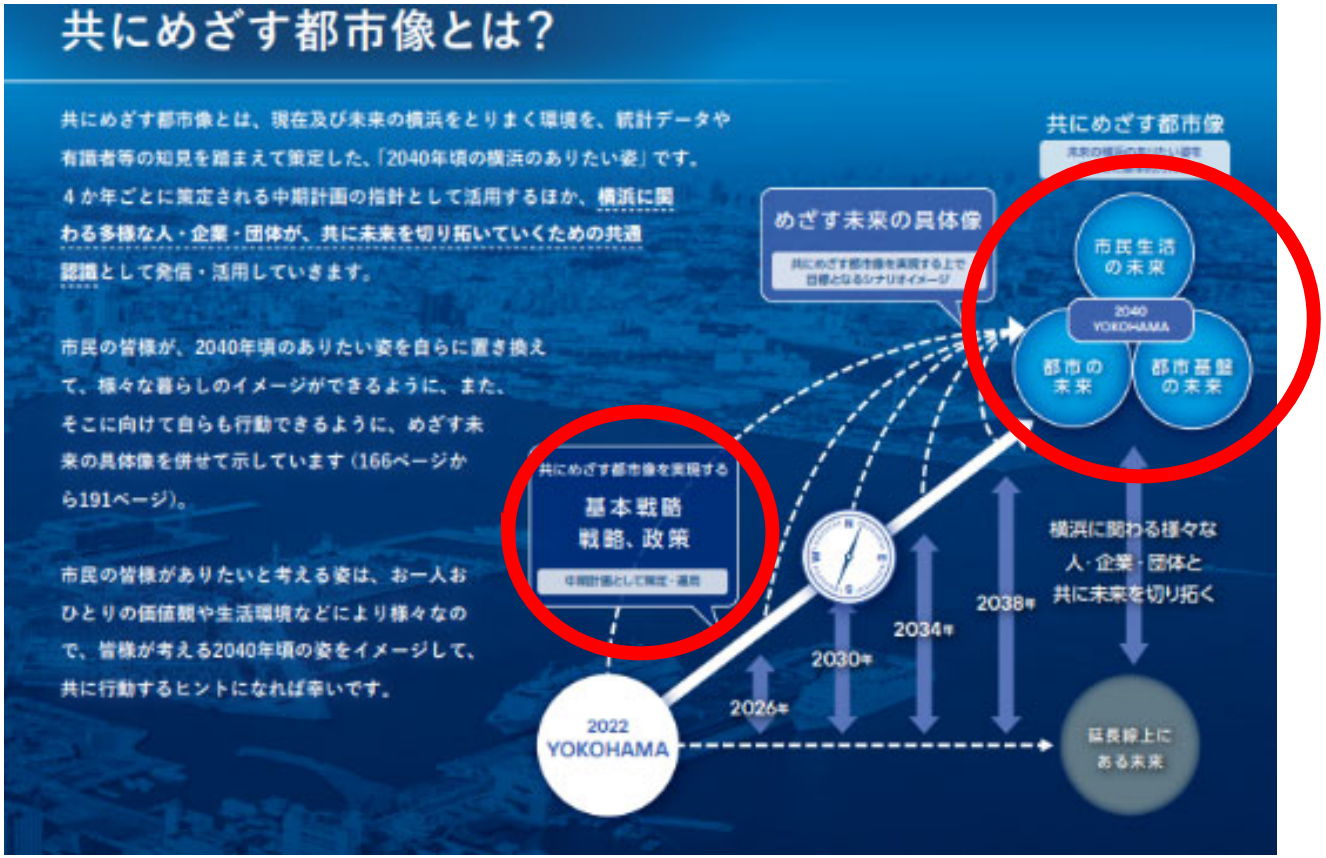
森林、土壌、水、大気、生物資源など、自然によって形成される資本。生活環境から生物多様性まで幅広く捉えている。

これまでの環境側の視点だけにとどまらず、環境・経済・社会が好循環を生み出し、持続可能な発展につなげられる枠組みとする。

横浜市中期計画（2022-2025)との整合性

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

次期中期との整合性	共にめざす都市像（将来像）、戦略（10年）、政策（中期4か年）とも整合



共にめざす都市像（めざす未来の具体像）

市民生活の未来

暮らしやすく誰もがWELL-BEING※を実現できるまち

社会や時代の変化に適応しながら、あらゆる世代・多様な市民の皆様、一人ひとりが自分らしく活躍でき、いきいきと安心して暮らすことのできる、そのような市民生活の実現を目指します。

都市の未来

人や企業が集い、つながり、新しい価値を生み出し続けるまち

これまでの歴史の中で、受け継いだ様々な価値と、新たに生み出す価値を織り交ぜながら、常に変化し、独自の魅力を発信し続け、人と企業が集う都市を目指します。

都市基盤の未来

変化する時代・社会に適応し、市民生活や都市を支える新しい在り方を実現し続けるまち

交通インフラ、脱炭素、環境保全、災害対策など、横浜での暮らしや様々な活動を支え、持続可能な都市として発展・進化し続けるための強い基盤づくりを目指します。

3 計画本編の骨子案

次期計画の構成

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

目次

環境課題を自分ごと化するための導入

冒頭メッセージ

第1章　未来の横浜の環境は
1　横浜の環境　未来を考える
2　目指す姿・ビジョン
3　計画の位置づけ・計画期間
4　計画構成

まずは将来像の提示

第2章　横浜を取り巻く環境の状況
世界の現状、日本や横浜の現状
市民・企業の環境の意識

環境の現状、環境への意識

市民・企業・行政がそれぞれ何をするのか

第3章　目指す姿の実現に向けた取組
1　未来を育むつながり・自然・文化・学びにあふれるまち
2　環境を賢明に保全・創造し、自然の恵みを享受しながら健康で快適に暮らせるまち
3　気候変動に対応し、脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち
4　持続可能な循環の仕組みにより、環境・経済・社会が相互に高めあい成長するまち

第4章　配慮指針等

資料編
1　計画の変遷
2　答申の反映状況・パブコメの結果
3　関連計画　　4　基本条例

「メッセージ」と「第１章　未来の横浜の環境は」

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

冒頭メッセージ	環境課題を自分ごと化するためのメッセージ
１ 横浜の環境 未来を考える	自分が行動した時の未来と、何もしなかった時の未来を具体的に記載。
２ 目指す姿・ビジョン	<u>キャッチコピー検討中</u> 自然とともに、自分らしく。 気候変動への対応はしなやかに。 サステナブルな循環の中で、 わたしも、環境も、このまちも、みんなつながっている。 わたしらしく生きられるこのまちは、 環境にも社会にも“心地よい”まちなんだ。
３ 計画の位置づけ ４ 計画構成	・現行計画と同様に環境分野の総合計画として位置づけ ・計画期間は2040年まで ・計画構成は前項説明のとおり

ポイント	環境の現状と、市民・企業の環境への意識を知る

●世界の現状
・地球環境の危機。地球の限界「プラネタリー・バウンダリー」
・気候変動により様々な災害が発生している
・COP27やCOP15が開催され、気候変動や生物多様性について世界の取組を推進

●日本や横浜の現状
・ほとんどの地点で環境基準を達成しており、今後も良好な状況を維持することが必要
・横浜の人口が減少に転じており、持続可能な社会のために、一人ひとりがより環境に意識を向け、行動していくことが必要

●市民の環境の意識
・環境に関心があり行動している市民は8割

●企業の環境の意識
・環境に配慮した企業活動が企業に価値になっている
・大企業が経営方針に環境配慮を盛り込んでいる一方で、利益に結び付きにくいと捉えている企業もある。

ポイント

具体的な行動で、未来に向けて動き出す

・分野別に目標となる、将来像をイラスト・文章で表現。
・その目標にむかって市民・企業・本市がそれぞれ何をやっていくのかを記載。

■ 第３章　目指す姿の実現に向けた取組

1　未来を育むつながり・自然・文化・学びにあふれるまち

持続可能な社会の実現に向けて、様々な主体が様々な場で協働・連携し、環境教育・普及啓発を行うことによって、環境を自らの課題として認識し、自ら考え、環境にやさしいライフ・ビジネススタイルを実践する人の育成を目指します。

【目標案】
・環境にやさしいライフスタイルが日常生活に浸透している。　等　目標は素案に向けて調整中

【現状と課題】
・水辺愛護会、公園愛護会、NPO など市民によって環境活動が支えられている
・環境活動をしている市民の高齢化が進んでいる
・自然観察の森や動物園、ウェルカムセンターなど、都市部からアクセスしやすい環境教育の場がある

【取組方針】
●市民が取り組むこと
環境問題への関心を高め、理解を深めるとともに、環境保全活動に自然に参加します。

●企業が取り組むこと
企業として社内での環境教育を積極的に実施するとともに、本市や他の主体と連携し、地域の環境保全活動や環境教育に参画します。

●本市が取り組むこと
政策１：協働・連携による環境活動推進
あらゆる主体があらゆる場で学び、持続可能な社会の実現に向けた環境行動を実践できるように仕組みや支援策の充実を図ります。2027年国際園芸博覧会の開催も契機とし、環境行動のさらなる推進に向け、協働・連携の取組を広く展開します。
（施策例：地域住民による様々な地域活動等、多様な主体への取組支援）

【分野タイトル】

【目標案】

【現状と課題】

【取組方針】
●市民が取り組むこと
●企業が取り組むこと
●本市が取り組むこと
（施策イメージ）

Ⅰ　未来を育むつながり・自然・文化・学びにあふれるまち
（政策Ⅰ「環境と人・地域社会」、施策7「環境教育・学習」 等）

※カッコ内は現行計画の政策・施策

目標	（素案に向けて調整中） 環境にやさしいライフスタイルが日常に浸透している
市民・企業が取り組むこと	・環境保全活動に自然に参加 ・地域の環境保全活動・環境教育への参画
本市が取り組むこと	政策Ⅰ：協働・連携による環境活動推進 ・2027年国際園芸博覧会の開催も契機とし、環境行動のさらなる推進と協働・連携を進める 政策2：各主体の環境教育の推進による環境人材育成 ・身近な問題から地球環境の保全まで広がりのある環境教育・学習プログラムを実践。環境情報の収集・提供、普及啓発事業を実施。

２ 環境を賢明に保全・創造し、自然の恵みを享受しながら健康で快適に暮らせるまち
（施策2「生物多様性」、施策3「水とみどり」、施策6「生活環境」 等）

※カッコ内は現行計画の政策・施策

目標	（素案に向けて調整中） ・市民生活の快適性が向上 ・市内全域で生物多様性が豊かになっている 等
市民・企業が取り組むこと	生物多様性とその恵みへの理解を深め、自然環境を守る取組を行う 快適な生活環境を守るため、環境への負荷を低減させる行動を実践する
本市が取り組むこと	政策1：「心地よさ」が実感できる生活環境の創出 ・良好な生活環境の維持 ・複合的・総合的な効果を生む環境保全の取組を促進 政策2：暮らしを支える水・みどり・生き物環境の創出 ・グリーンインフラ、Eco-DRR等の自然を基盤とした解決策の実装 政策3：水・みどり・生き物環境をいかした魅力づくり ・自然共生に向けた横浜ならではの魅力・賑わいづくり 政策4：生態系サービスの持続的利用を促す仕組みづくり ・主体的な環境行動が定着したライフ・ビジネススタイルの実現

３ 気候変動に対応し、脱炭素が暮らしや地域に浸透しているまち
（施策１「地球温暖化対策」等）

※カッコ内は現行計画の政策・施策

目標	（素案に向けて調整中） 2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを達成し、持続可能な大都市を実現する
市民・企業が取り組むこと	・脱炭素ライフスタイルへの転換 ・脱炭素経営
本市が取り組むこと	政策１：脱炭素社会の実現 ・脱炭素まちづくり ・プラスチック対策 ・市の率先 政策２：気候変動への適応 ・暑さ対策 ・浸水対策

４ 持続可能な循環の仕組みにより、環境・経済・社会が相互に高めあい成長するまち
（政策2「環境と経済」、施策4「都市農業」、施策5「資源循環」　等）　※カッコ内は現行計画の政策・施策

目標	（素案に向けて調整中） 環境分野における新たな技術・商品開発等の促進により、市内経済の活性化が進み、環境分野の取組のさらなる普及・促進につながっている
市民・企業が取り組むこと	・環境配慮された商品の選択・3R行動 ・脱炭素化、循環経済に資する研究・開発等
本市が取り組むこと	政策１：循環型の暮らしを支える仕組みづくり ・3R+Renewable１の取組、更なる資源・エネルギーの循環利用の推進 政策2：環境と経済の好循環の創出 ・イノベーションの創出、企業の脱炭素経営支援、持続可能な観光 政策3：循環型の暮らしを支えるまちづくり ・資源循環、横浜の特徴である農、持続可能な成長を支えるまちづくり ・意識醸成を図り、自発的によりよい循環を目指す担い手創出

4 諮問内容

諮問内容

横浜市環境管理計画に盛り込むべき視点について

5 今後のスケジュール

今後のスケジュール案

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

	R5年 前期		後期		R6年 前期
審議会	今回 諮問	盛り込むべき視点	答申	素案説明	
市民・企業			市民団体意見交換 小学生・高校生等と意見交換 企業意見交換	案 パブコメ	
市会			基本的な考え方	素案	

作成・公表